

いわみの

(益高だより)

令和4年度7月号 令和4年7月22日

(第161号)

島根県立益田高等学校

「ふるさと益田・母校益田高校」

校長 長岡 正和

益田は、自然豊かで気候もよく、歴史も古く文化にも趣きがあり、本当に住みやすい町である。活断層や火山帯の影響も少なく、地震や台風などの自然災害も他の地域に比べて起こりにくい。日本海側ではあるものの冬は雪も少なく、北日本や東日本に比べて温暖で日没時間も遅く日照時間も長い。そんな地理的にも気象的にも恵まれた環境が、お互いを気遣い大切にし、気さくで温かみ溢れる人間を育てていく。人口四万五千人弱の高齢者の割合が高い田舎町ではあるが、それが私達の「ふるさと益田」なのである。

君達は、現在益田で生活していても、そんな恵まれた状況が当たり前過ぎて、その良さに気づいていないかもしれない。ただ、社会人となって高校時代を含め昔を思い返したとき、この「益田」のことを「ふるさと」と呼ぶに違いない。そして、環境が自分を育ててくれたこと、地域の方々を支えていただいて成長できたことを感謝する日は必ず来る。

先日の『益田未来協働フェスタ』では、本校2年生が、運営並びに、小中学生・高校生へのアウトリーチ活動を通して、自らの実践力・表現力などを高めるとともに、小中学生に科学を身近に感じてもらい地域に科学の楽しさを広めてくれた。2学期にも地元小学生対象に、本校生徒による「出前実験」や「理科読を楽しむ会」を行うが、過去自分達が小学生だった時、当時の益高生達に指導してもらったように、益高生になった自分達が今度は地元の小学生を指導していくというサイクルは、19年目となったSSH活動の大切な益田高校の伝統になっている。参加してくれた小学生達のキラキラと輝いたまなざしや笑顔を、大事にしていきたいと感じたのは私だけではなかったと思う。

また、益高生自身もそれぞれ、課題探究・課題研究において、市教委、地域の企業、大学、ユタラボ等、多くの地域の方々のご理解、ご協力のもと、探究活動に取り組みさせていただいている。そんな出会いやふれあいこそが、「益田」や「益田高校」ならではの貴重な縁となり、郷土愛や母校愛に繋がっていく。

「歌の聖と畫の聖、ふたり眠れりこの郷に、七尾山下の我が校舎～」 残念ながら、コロナ禍により声を出しての校歌斉唱をする機会がずいぶん減りはしたが、校歌こそ、時が経つほど懐かしく思い出されるものである。私自身、15年前教諭として初めて母校益田高校に着任した新任式での校歌斉唱に、自然と涙が溢れたことを今でも覚えている。昔と変わらない古い校舎ではあるものの、それだけに余計にここ益田七尾山麓で培った高校時代の思い出が懐かしく蘇ってくる。

生徒諸君、いや私にとってはいずれ同窓生となる益高生の後輩達よ。君達には、まずは様々な事に感謝しながら今を逞しく生きてもらいたい。そして今後とも「ふるさと益田」を「母校益田高校」を、いつまでも愛し、大切に思い続けてくれることを心より願っている。

1 学期を振り返って

「経験することの大切さ」

教務部 山田 忠幸

ダウンタウン（日本語では「繁華街」「都心」などの意）は、その都市の中でも標高の低いところ（＝下の方）にあります。書いて字の如くなのですが、30歳を過ぎてからそれを知りました。ヨルダンの首都アンマンで、アッパータウンにある新しいバスターミナルから、ダウンタウンのホテルまで、タクシーが坂をどんどん下って行った時に気が付きました。言葉は知っていましたが、なぜダウンタウンと呼ぶのか実感を持って理解できました。きっと、水を得やすい谷底に町が成立し、そこが都市の中心になったのでしょう。

皆さんは授業で様々な知識や考え方を教わっていますが、それが全てではなく、獲得した知識や思考が自分の経験と結びついて、能力になっていくのだと思います。むしろ、授業よりも自分で経験的に獲得した知識や技術の方が強く印象に残り、その後の人生に役立つのではないのでしょうか。柔道の受け身は言葉だけ知っていてもできません。何度も練習（経験）して無意識にできるようになり、転んでも頭を打たなくなります。

さて、夏休みは普段の学校生活ではできない経験をする絶好の機会です。外に出て色々な経験をして欲しいのですが、コロナがその機会を奪っているのは間違いありません。とても残念です。それでも、家の手伝いや、読書、料理、人の少ない海に行ってみる…など、簡単なアクションで新たな経験はできます。あなたは、着火剤なしで炭に火を付けることができますか？結構難しいです。大根おろしを作ったことがありますか？まず、おろし金に指が当たって痛いのです。パッサパサの大根でも、おろしてみると、驚くほど水分が出ます。何か発見のある長期休暇になると良いですね。

又は、来るべき経験のために教養を身に付けるべく、勉学に励みましょう。良い夏休みを！

「それって 目標？ 欲望？」

進路指導部 寺岡 智弘

最近、『勉強が面白くなる瞬間』という本を読みました。その本に書かれていた「目標」と「欲望」の違いが自分にグサッと突き刺さったので皆さんにも紹介します。

目標 … 自分が真剣に叶えようとするもの

欲望 … 運良く手に入れたいという漠然とした願い

私が毎年正月に「今年中に体重〇〇kg」と立てていた新年の決意は「目標」ではなくただの「欲望」だったのです。達成させようと運動するわけでもなく、暴飲暴食を繰り返し、それなのに達成できればいいなあという甘えだらけの完全な「欲望」でした。

さて、皆さんが今もっている進路目標は「目標」ですか？「欲望」ですか？

自信をもって「目標」だと言える人はそれでいいです。目標実現のために自分を高める夏にしてください。「夏を制する者は受験を制す」とよく言われます。夏期補習や模試などを利用して確かな力をつけてください。

一方、「欲望」だったかも…という人はそれを「目標」と呼べるように取り組みを変えるのか、それとも全く別の「目標」を見つけるかのどちらかです。いずれにしても、この夏は皆さんにとって大切な時間です。充実した夏になるよう願っています。

「仲間の大切さ」

生徒部 中村 展久

この1学期は、新型コロナの影響を受けながらも何とか学校行事や部活動などを行うことができました。先日は、夏の高校野球県大会が開催され、惜しくも延長戦の末に敗れましたが、全力で最後まであきらめず粘り強い戦いを見せてくれました。今年はこの試合を生徒会執行部と吹奏楽部で応援に出かけました。試合前に雨が降り、試合時間が大幅に遅れて開始となりましたが、吹奏楽部のバリエーション豊富な演奏と生徒会のメガホンによる応援でスタンドから熱い声援を送りました。普段の学校での関わりに関係なく、一生懸命に声援を送る生徒の姿と、それを受けて精一杯戦う選手の姿の関係は、クラス間や部活動間をこえた一体感を強く感じました。

今回の野球の試合を見ながら、普段の学校生活でもクラスや部活動の垣根を越えて、お互いが励まし、刺激しあうことができると、今以上により良い活動や人間関係ができるのではないかと感じました。夏休みの部活動では他の部活動を見てみたり、2学期の学園祭では様々な人たちと関わるなど、これまでとは違った仲間と関わる機会を増やしてみたいです。



「スポンジのように吸収する。」

1年学年主任 西尾 平

1年生の皆さんが入学して4カ月が経過しました。時が経つのは早いものです。高校生としての時間を大切にしてくださいね。今年度は4月の遠足、5・6月の県高校総体や定期演奏会、文化系活動のコンクール、7月のスポーツ大会、益田未来協働フェスタなど多くの活動やイベントはコロナの感染拡大対策を徹底して実施することができました。生徒たちからは、行事やイベントを通して先輩や同級生と交流しながら高校生活を楽しく過ごしている様子が伺えます。今だから伝えられます。実は私の4月スタートは心配から始まっていました。原因は4月の課題テスト結果と土日等の学習の取り組み状況です。正直焦りました。テスト前にもかかわらず学習時間がゼロの生徒がいたり、面談時で学習時間を確保するためにまずは睡眠時間を削ると言う生徒がいたり不安材料ばかりでした。しかし、君たちは日々成長していき、純粋に学習に向き合い、生活スタイルを変化させて益田高校生らしく過ごしていくことができるようになったのです。様々なことを吸収して成長していく今の1年生は先生方に「伸びそうな学年だね。」とよく言われます。吸収力あります。伸びしろだらけです。それでは、充実した夏休みを過ごしてください。学園祭も盛り上げましょう。高校3年間でどれだけ成長してくるのか、今では期待感で一杯です。

「君は生き延びることができるか」

2年学年主任 奥野 昌明

表題のセリフは、1979年に始まったアニメ『機動戦士ガンダム』の次回予告に必ず入れられた決めセリフです。ガンダムとは地球連邦軍とジオン公国の争いに囚わられず巻き込まれた15歳の少年アムロ・レイを始めとした少年少女の成長を描いた物語です。放送当時は「アムロのように一年戦争の渦中に放り込まれたら君はどうする？」的な問いだと思っていました。しかし、時を経て思い返してみると、過酷な状況の中で困難を乗り越え、数々の出会いと別れを繰

り返しながら成長していく様子は、程度の差こそあれ今の私たちと何ら変わりません。これは視聴者のリアルに向けられたセリフに思えます。さて、益高2年目を迎えた皆さんにとって、1学期はどんな期間だったのでしょうか。とにかく忙しく、あっという間だったという声が聞こえそうですが、3年生の後ろ姿をきちんと追えていますか？1年生の手本となるべき『先輩』になれていますか？部活動における主軸はもちろん、様々な学校行事を先導していくのは皆さんです。自分たちの置かれた立場をしっかりと意識しながら、この夏休み期間を充実させてほしいと思います。使い古された言葉ではありますが、「自分の人生の主役は自分以外にはあり得ません」。これからをどんな物語にしていくのかは自分次第です。自分の理想とする未来を手繰り寄せ、生き延びていくための力を養いましょう。

地平線の先に辿り着いても
新しい地平線が広がるだけ
「もうやめにしようか？」
自分の胸に聞くと
「まだ歩き続けたい」と
返事が聞こえたよ
知らぬ間に増えていった荷物も
まだなんとか背負っていけるから
君の分まで持つよ
だからそばにいてよ
それだけで心は軽くなる

3年学年主任 廣田 理史

ミスチルのGIFTの歌詞の一部です（とても素敵な曲なので、是非聴いてみてください）。私自身が目の前のことから逃げ出したくなった時にこの歌詞を聴くとまたやる気が出るので、ここに書かせてもらいました。

生徒のみなさん

受験や大会までの道のりが納得できるものになるように自分自身に負けないでください！

そして、一緒に頑張っている人がいることを忘れな

いでください。
自分自身にもそして周囲の人にも声を掛けながら、大きく成長できる夏休みを乗り切ってください！

1学期終業式～8月の学校行事

- 7月23日（土）・30日（土）3年大学別模試（希望者）
- 7月25日（月）～27日（水）1，2年夏期補習・保護者面談
- 7月25日（月）～8月5日（金）3年夏期補習
- 7月29日（金）オープンハイスクール
- 8月8日（月）・9日（火）3年全統マーク模試

8月18日（木）始業式

全学年国語・数学・英語課題テスト

- 8月22日（月）・23日（火）1，2年全統記述模試
- 8月27日（土）3年全統記述模試

- 益高メール配信システムに登録をお願いします。（メールアドレスが変わった人などは再登録してください。登録の仕方が分からないという人は岩野（図書準備室）まで。）
- 益田高校ホームページやInstagramは下記のアドレスから閲覧できます。新しい情報をどんどんアップしますのでぜひご覧ください。

益田高校ホームページ <https://www.masuda.ed.jp/>

益田高校Instagram https://www.instagram.com/masuda_high_school/